

## Q 日本一自殺率の少ない町にするために

ふくしま  
福島 恵美 議員



## A 現在は、自殺対策を市の重要課題とすることはできない

**問** コロナ禍以降、女性と若年層の自殺者数が増えている。自殺は暗数が多い死である。現状把握の解像度を上げる必要性は。

**答** 計画の見直しはなかった。状況の変化に対応できる体制にする必要性は。

**問** 自殺者の年齢、性別、家族状況、就労状況などは、国が統計を取っている。詳細な分析ができることが望ましいが、市として現状では難しい。

**答** 国の指針に基づき、全国一体で計画を推進している。今後5年間の計画を策定する。

**問** コロナ禍で自殺者が増えたが、計画期間5年間の自殺対策

**答** 国は社会的な問題であるとして、WHOも指摘している。交通事故や疫病禍での死よりもはるかに政治責任は重い。



市長は、自殺対策を本市の最重要課題とするつもりがあるか。

**答** 福島議員の話聞いて、改めて自殺問題の重要性を感じているが、現在は、市の重要課題とすることはできない。

### ◎その他の質問

一 鶴ヶ島市のジェンダーギャップを解消するために

二 鶴ヶ島市が真に安心できる町になるための情報発信について



## Q ごみ問題解決のために

いずもびんたろう  
出雲敏太郎 議員

## A 様々な収集方法を長期的に検討していく



ごみ収集車

**問** 現在の自治会加入率は。

**答** 53・34%である。

**問** ごみ集積所の設置や維持に補助金を。

**答** 直ちに補助金制度を創設する予定はないが、集積所の管理及び利用者に今後でもできることを継続して検討していきたい。

**問** 適当な民地がなく、道路を集積所設置の候補地にせざるを得ないケースもある。配慮を。

**答** 安全性の確保という大前提はあるが、できる限り市民に寄り添った対応をしている。

**問** 加入率や高齢化などにより、自治会が集積所の設置や管理を担うシステムは限界では。

**答** 自治会がご苦労されている

のは承知している。集積所の在り方について地域の皆様と考えていきたい。

**問** 自治会が、設置や管理はもうできないと断った場合は。

**答** 個別相談となるが、集積所を利用者管理に変更するなど相談内容に応じた提案をしたい。

**問** 戸別収集の議論を。

**答** 収集体制を含めた様々な課題を長期的に検討する。

### ◎その他の質問

一 統合型校務支援システムの更なる活用を

二 飼犬の適切な飼育方法に関する周知等について